

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 2 月 8 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/8 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力 ^{*1}	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約1.9m ³ /h	18.5	105.7 kPa abs	A系: 0.00 Vol%
		給水系:約2.5 m ³ /h			B系: 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.6m ³ /h	31.7	6.84 kPa g	A系: 0.03 Vol%
		給水系:約2.0 m ³ /h			B系: - ^{*2} vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.5m ³ /h	31.5	0.24 kPa g	A系: 0.18 vol%
		給水系:約2.0 m ³ /h			B系: 0.17 vol%

*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

*2:計器点検に伴いデータ欠測

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/8 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	11.0
2号機	循環冷却システム	運転中	12.6
3号機	循環冷却システム	運転中	10.7
4号機	循環冷却システム	運転中	22

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	2/6 13:42 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	1/24 11:03 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系^{*1}の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。なお、当該作業については、2月上旬まで、適宜、実施する予定。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/8 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

< 5 . その他 >

- ・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。
- ・H25/2/6 13:00 頃、3号機使用済燃料プール上部に残存する鉄骨トラス瓦礫の撤去作業を行っていたところ、油圧フォーク2台により吊り上げていた鉄骨トラス瓦礫が二つに破断した。破断した二つのトラス瓦礫は、油圧フォークで把持した状態であったが、破断した片側のトラス瓦礫が使用済燃料プール内に留まった。同日14:06 までに、二つのトラス瓦礫を油圧フォークで3号機原子炉建屋南側ヤードに移動した。その後、当該瓦礫撤去作業前に使用済燃料プールに存在していた燃料交換機マストと思われる瓦礫が、作業後の画像において確認できなかったことから、2月7日、使用済燃料プール内に水没した可能性があると判断。今後、準備が整い次第、水中カメラによる使用済燃料プール内の状態確認にあわせて、燃料交換機マストと思われる瓦礫がどのような状態で水没しているか、調査を行う予定。また同日、使用済燃料プール水の核種分析を行った結果、撤去作業前の2月5日に分析した結果と同程度であることを確認。(2月7日分析結果)セシウム $134:5.3 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム $137:9.6 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ 、ヨウ素 131: 検出限界未満(検出限界値 $7.4 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$)、(2月5日分析結果)セシウム $134:5.0 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム $137:9.0 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ 、ヨウ素 131: 検出限界未満(検出限界値 $6.7 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$)。なお、使用済燃料プールの水位、及びモニタリングポスト指示値の有意な変化は確認されていない。

燃料交換機マスト: 燃料集合体を移動する際に使用する掴み具を昇降するための伸縮性のポール(長さ: 約5 ~ 23m、重さ: 約1.5トン)

- ・H25/2/8 1 ~ 4号機取水路前面エリア北側のシルトフェンスについて、7:15 ~ 7:25、8:25 ~ 8:35 にそれぞれ開閉を実施。
(2号機取水口に2重に設置してあるシルトフェンスのうち、内側の1本についてシルトフェンスを固定している端部(片方)のワイヤーが損傷していることを確認したことから、損傷を確認した2号機を含め、1, 2, 4号機取水口シルトフェンスのワイヤーについて補修作業を実施(3号機は、昨年11月シルトフェンス交換時に補修済。)

以上